

市議会議員小池みよ子の ひたすら鹿嶋のために

## 活動報告 Vol.12

小池みよ子  
後援会会報 vol.12【発行】  
小池みよ子後援会  
〒314-0034 鹿嶋市鉢形1493-2  
TEL 0299-83-5252  
携帯電話、090-1690-0136

所属委員会 環境経済建設委員会/議会運営委員会/広報委員会/議会改革検討協議会

議会報告 平成26年9月市議会 一般質問

エル君は  
今日も元気に  
家族を守り  
ます

議員として、私の思いを込めた一般質問です。

毎週のように日本列島を襲う台風、各地で起こる災害、市内各所においても被害がありました。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、私の議員活動も5年目、市内を歩かせていただくと様々な市民の皆様の声をお聞きします。そのひとつに解決のめどが付けられれば良いのですが・・・。出来ることから一つづつ、時には穏やかに、時には声を荒げつつ、皆様の声を代弁させていただいています。今回は13回目の一般質問となりました。その都度、市民生活に密着したテーマを取り上げ訴えてきました。今回は敬老会の在り方を、人口66,753人に対して10,551人の敬老者。今後、年に600人づつ増えていくと予想されています。有意義な事業であることは確かですが、このままでよいのか。対象年齢の引き上げを含む今後の在り方について質問をさせていただきました。そして、高齢者が切望する公共交通体制の再構築。政府も本腰を入れて取り組もうとしています。また、このままでは50パーセントを切ろうとしている自治会の加入率の問題。自治会活動はまちづくりの根幹に関わることにこの思いからこの問題を取り上げました。「関係ないわ・・・」と言わずに鹿嶋市民である以上自治会に加入してください。「自助、公助、共助」。これからの高齢化社会に向かい支え合う鹿嶋を作っていきましょう。

ひたすら鹿嶋のために・・・皆様の思いがどの程度反映されているか読んでみてください。

## 質問 1、敬老会のあり方について

## Q1 対象年齢とその人数は

本市人口6万6753人（平成26年8月1日現在）のうち敬老会対象者は1万551人。参加対象年齢を見直すべきと考えるが、市の見解を伺いたい。  
また、39.7%の敬老会出席率に対する市の見解は。

## A1 錦織市長

今後、毎年400人から500人の増加が予想され、団塊の世代が対象となる平成34年には約1万7000人が見込まれる。今回、全ての敬老会に参加し、状況を確認する中で今後の対応について判断したい。

## 市民福祉部長

様々な敬老者がいる中で約4割の出席率が高いと判断している。地域福祉を推し進めるための活動の一環として敬老会事業を捉えており、地域の理解と協力を得ながら継続して進めていきたい。

## Q2 このままで推移していくのか、今後の展望について市の見解は

6割の方に参加していただけない敬老会をどう考えるのか。各自治体何力所かに聞き取りをしました。多くの自治体が対象年齢を上げていて、80歳からという自治体と77歳、80歳、88歳と、節目の年のみと云う自治体がありました。鹿嶋市として新たな敬老会の在り方は考えているのか伺いたい。

## A2 市民福祉部長

72歳対象となりながらも、敬老会のほうには足を運ばない敬老者自体の判断もあると思いますし、身体の状況で出席に至らないというような方もいらっしゃると思います。そういった多くの敬老者の状況で約4割の方が出席していただいていることは、私としては大変出席率の高い内容だったと判断しております。

敬老会事業を地域の結びつきを深めるための一つのきっかけとして期待していることは、市長の所信の中でも触れておりましたが、敬老会の開催を外出のきっかけ、あるいは地域との交流のきっかけとなること、また欠席者に対する祝い品を配布することが地域から孤立しがちな高齢者につながるきっかけとなるなど、地域福祉を推し進めるための地域福祉活動の一環として捉えております。事業手法については、より参加しやすい、より喜ばれるよりやりがいのある方法について見直しや検討を今後重ねていきたいと思っております。





## 敬老会についての私の思い

地域福祉の一環として捉えていくことは、私もそのとおりだと思っております。滅多に触れ合う事のないお年寄りも喜んで参加して下さっていますので、私もこの敬老会の実施に反対するものではありません。賑やかに楽しんでいただければと願う一人です。二十数年実行委員として現場を見て来た者の意見として**4割の人が出てくれたのではなく、6割の人が出席しないことを問題にすべきだと思います。**

欠席者への記念品配布は大変な作業と身を持って体験しました。安否確認という有意義な作業であったりもします。記念品が要・不要については高齢者への周知徹底が必要かなど、この辺のところをよく高齢者の声を聞いて頂き、敬老会の参加年齢の引き上げとあり方も真剣に考える時期に来ていると思います。

## 質問2、公共交通体制構築への取り組みについて

### Q1 現状の課題と今後の展望について

タクシー券の初乗り運賃補助として、月2枚にこだわることなく使えるようになりました。大野地区と鹿島地区の使われ方の比率をお聞かせください。バスもコースごとの乗車人数に偏りがあるように思われます。現状の課題をどう認識しているのか、また今後の展望についても市のお考えをお聞かせ下さい。

### A1 市民福祉部長

タクシー利用券の有効期限を上半期4月から9月、下半期10月から3月とし、より利便性を高め実施しております。今年度のタクシー利用券の申請人数は、7月現在鹿島地区1,199人、大野地区612人、割合は鹿島地区66.2%、大野地区33.8%の状況です。4月末現在の交付枚数のうち利用された割合は鹿島地区50%、大野地区35%、市全体としては45%の状況です。  
**※この数字は大野地区が使いがづらい事を証明しています。**

### Q2 ドア・ツー・ドアのデマンド交通体制の必要性について

高齢者が安心して本市に住み続けるためにはデマンド交通の導入が不可欠と考えますが、コミュニティバスの現状の課題と今後の展望について伺いたい。

### A2 錦織市長

高齢者の外出機会の創出及び拡大は自治体に課された課題の一つであることから、国の動向を掌握し、デマンド交通導入の可否を見極めたい。

### 企画部長

コミュニティバスについては、中央線や湖岸海岸線に比べ循環線の利用が少ない。また、別路線への乗継、鉄道との接続にも課題があり、市民ニーズを反映した運行計画を検討していきたい。



## 質問3、自治会加入率アップについて

### Q1 加入率の現状と推移、その理由について、鹿嶋市総合計画で打ち出した数字の裏付けは

年々加入率が低下している中、本市総合計画で打ち出した加入率の目標数値68%の裏付けと目標達成のための対策について伺います。

### A1 市民協働部長

東日本大震災により改めて自治会活動の重要性が見直されたこと、少子高齢化社会や安心安全に暮らせる地域づくりに果たす自治会の役割が不可欠であるとの認識から、7割程度の世帯加入が必要であると判断し目標値とした。

### Q2 市の考える具体的な対策は

市長は公約の中で近助力の構築をうたっています。自治会加入率アップに向けて鹿嶋市はどのように考えているのか、ご意見をお聞かせください。

### A2 錦織市長

少子高齢化社会において、安全安心に日常生活を送るには、ご近所においての顔の見える関係を築いていくことが求められております。自治会は住民の相互扶助や親睦を図りながら、地域における市民力を結集し、住み良いまちづくりを目指す基礎的な組織です。加入率アップ促進について、可能な限り支援してまいります。

### 市民協働部長

加入率向上の対策として、市役所窓口での加入促進パンフレットの配布や広報かしま、FMかしまを介して継続的なPRに努めている。自治会の魅力向上、運営手法などをまとめ手引書を各自治会に配布している。



あなたの声を大切に！

何時でも、何処でも私に声をかけてください。みなさまの“声”をお待ちいたしております。



ブログも覗いてみてください。

小池みよ子の思い

検索

皆さまのご意見もお気軽に  
お寄せください

<http://plaza.rakuten.co.jp/hatigata/>



鉾形地区内の液状化対策  
試験施工現場です。  
今後の地震に備えての  
減災対策です。